

河川改修に伴う交差点改良①

中島川に架かる中央橋について、河川改修事業による所定の河川断面を確保するため、架替えを行いました。中央橋は、大波止から旧県庁前を経て商業の中心地である浜町に通ずる幹線橋として物資の流通に寄与している市街交通の要衝であり、その架替えにあたっては、周辺部への交通及び経済的影響を及ぼすことが考えられました。

架替え前の中央橋



(大水害直後の中央橋部の状況)



(架替え前の中央橋)

河川改修に伴う中央橋架替えにあたっては、中央部の橋脚の除去や橋桁の厚みの抑える等の改良が新しい橋に求められました。

横断歩道橋の撤去実現ために

中央橋に隣接する中央橋交差点は、昭和42年に架設された横断歩道橋が歩行者の通行を担ってきました。しかし、中央橋の橋梁架替えにあたり、歩行動線の向上とバリアフリー化、中心市街地活性化等を目的として横断歩道橋を撤去し、横断歩道による平面的な歩行者の通行確保について検討を行うこととなりました。

しかし、県内でも屈指の交通量を誇る本交差点において、車両通行のみの現況にあって、その能力は飽和状態に達していました。ここに、横断歩道橋の撤去による歩行者通行の付加が加われば、渋滞が増長されるおそれがありました。

このことから、中央橋の架替え工事において、中央橋交差点におけるスムーズな歩行者通行の確保と車両渋滞の抑制という、相反する事象の克服に取り組んでいくことになりました。



(中央橋周辺部写真)

平成16年の調査時、交差点への進入台数は約3.3万台/12時間であり、県内屈指の交通量を誇る。



(中央橋架替え前の中央橋交差点)

四方向に主桁を広げる形で横断歩道橋が架かっていた。